

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	英語特別演習 I			学期	秋学期
代表教員	江口 真理子			選択/必修	選択
科目コード	H901101	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>英語はビジネスだけでなくアカデミックな世界においても国際共通語として広く通用している。英語で書かれた専門的な論文や著書から、正確に、かつ、素早く情報を収集する読解力は、研究者を目指す者にとって不可欠の能力である。</p> <p>アカデミックな英文を理解するには、一般的な語彙と文法力、および、専門知識の知識に加えて、アカデミックなテキストの構造を知っていることが有用である。専門的な論文の著者は意図をもって論文を執筆し、自己の主張を読者に受け入れてもらえるように論文を組み立てている。アカデミックな英文は明確な目的を持った文であるので、著者の主張とその展開方法に注目することによって、英文を効率的に読解することが可能となる。</p> <p>本講座では、アカデミックな英文の理解力を高めるために、リーディングのスキルを修得する。アカデミックな英文に特有のマクロ構造に注目するスキルを身に付け、速読の力をつける。マクロ構造とは、目的・イントロ・ボディ・結論・概要と詳細・文章の流れの方向等である。また、スキミング・文構造単純化・パラフレイズ、主題の見つけ方、支持文の見つけ方、アウトラインやサマリーの作り方を学び、幅広いリーディングスキルを育成する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アカデミックな英単語を理解できる 2) アカデミックな英語のテキストの構造を理解することができる 				
授業の内容	<p>第1回 ライティングのプロセス</p> <p>第2回 テキストの種類</p> <p>第3回 批判的な読み</p> <p>第4回 タイトルの理解</p> <p>第5回 重要な論点</p> <p>第6回 パラフレイズ</p> <p>第7回 要約</p> <p>第8回 パラグラフの構造</p> <p>第9回 序論と結論</p> <p>第10回 一貫性</p> <p>第11回 比較</p> <p>第12回 定義</p> <p>第13回 定義を説明するパラグラフ</p> <p>第14回 ノートの取り方</p> <p>第15回 事実と意見</p>				
テキスト	Stephen Bailey, Academic Writing: A Handbook for International Students Routledge				
参考文献					
評価方法	授業参加 50% レポート50%				
参考URL					
その他					

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	英語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	江口 真理子			選択/必修	選択
科目コード	H901102	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>英語はビジネスだけでなくアカデミックな世界においても国際共通語として広く通用している。英語で書かれた専門的な論文や著書から、正確に、かつ、素早く情報を収集する読解力は、研究者を目指す者にとって不可欠の能力である。</p> <p>アカデミックな英文を理解するには、一般的な語彙と文法力、および、専門知識の知識に加えて、アカデミックなテキストの構造を知ることが有用である。専門的な論文の著者は意図をもって論文を執筆し、自己の主張を読者に受け入れてもらえるように論文を組み立てている。アカデミックな英文は明確な目的を持った文であるので、著者の主張とその展開方法に注目することによって、英文を効率的に読解することが可能となる。</p> <p>本講座では、アカデミックな英文の理解力を高めるために、リーディングのスキルを修得する。アカデミックな英文に特有のマクロ構造に注目するスキルを身に付け、速読の力をつける。マクロ構造とは、目的・イントロ・ボディ・結論・概要と詳細・文章の流れの方向等である。また、スキミング・文構造単純化・パラフレーズ、主題の見つけ方、支持文の見つけ方、アウトラインやサマリーの作り方を学び、幅広いリーディングスキルを育成する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) アカデミックな英単語を理解できる</p> <p>3) アカデミックな英語のテキストの構造を理解することができる</p>				
授業の内容	<p>第1回 論文執筆の背景</p> <p>第2回 ディスカッションの語彙</p> <p>第3回 一般化</p> <p>第4回 原因と結果</p> <p>第5回 問題と解決</p> <p>第6回 図と表</p> <p>第7回 省略</p> <p>第8回 受動態による表現</p> <p>第9回 アカデミックな語彙</p> <p>第10回 アウトライン</p> <p>第11回 文献レビュー</p> <p>第12回 報告書</p> <p>第13回 サーベイ</p> <p>第14回 論文</p> <p>第15回 事例研究</p>				
テキスト	Stephen Bailey, Academic Writing: A Handbook for International Students Routledge				
参考文献					
評価方法	授業参加 50% レポート50%				
参考URL					
その他					

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	中国語特別演習 I			学期	春学期
代表教員	孟 達来			選択/必修	選択
科目コード	H901103	授業形態	演習	単位数	1.0
授業の概要	<p>本授業は、中国語によるコミュニケーション能力を向上させ、実践的な中国語能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>中国語を初めて学ぶ履修者の場合は、中国語の発音、基本的な文法事項、日常的に使われる表現の習得を目指す。</p> <p>中国語の学習歴がある履修者の場合は、中国語の会話力および中国語文献の読解力を更に向上させることを目指す。また、専攻分野に関する原文資料の読解能力を身に付け、その能力を研究に活かすことを目指す。</p>				
授業の内容	<p>最初の授業で、履修者の中国語能力および専攻分野を確認したうえで、用いるテキストを選定し、授業進度と到達目標を設定する。</p> <p>初学者の場合は、中国語の発音の基礎、ピンイン(中国語の発音表記)の知識、基礎的な文法事項、日常的に使われる口頭表現と文章表現などを学ぶ。</p> <p>学習歴がある履修者に関しては、持っている中国語能力を判断したうえで、中国語の会話力および中国語文献の読解力の向上を目指して授業を行う。また、履修者の専攻分野に関する原文資料の読解を通じて、研究に関する中国語の文献資料を利用できることを目指す。</p>				
テキスト	最初の授業で履修者と話し合い、履修者の中国語能力を判断したうえで、テキストを選定する。				
参考文献	参考文献は、授業時に紹介する				
評価方法	出席状況、課題などの取り組みや提出状況、期末試験の成績等を総合的に判断して評価する。				
参考URL					
その他					

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	中国語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	孟 達来			選択/必修	選択
科目コード	H901104	授業形態	演習	単位数	1.0
授業の概要	<p>本授業は、中国語によるコミュニケーション能力を向上させ、実践的な中国語能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>中国語を初めて学ぶ履修者の場合は、中国語の発音、基本的な文法事項、日常的に使われる表現の習得を目指す。</p> <p>中国語の学習歴がある履修者の場合は、中国語の会話力および中国語文献の読解力を更に向上させることを目指す。また、専攻分野に関する原文資料の読解能力を身に付け、その能力を研究に活かすことを目指す。</p>				
授業の内容	<p>中国語特別演習Ⅰの継続として、履修者の中国語能力の更なる向上を目指す。</p> <p>初学者の場合は、中国語の発音練習を強化すると同時に、日常的に使われる口頭表現と文章表現の習得を目指す。また、文法の基礎知識の習得を図る。</p> <p>学習歴がある履修者に関しては、中国語の会話力および中国語文献の読解力の更なる向上を目指して授業を行う。また、履修者の専攻分野に関する原文資料の読解を通じて、研究に関する中国語の文献資料を利用できることを目指す。</p>				
テキスト	履修者の学習状況、身に付けた中国語能力、および専攻分野などを考慮しながら、テキストを選定する。				
参考文献	参考文献は、授業時に紹介する。				
評価方法	出席状況、課題などの取り組みや提出状況、期末試験の成績等を総合的に判断して評価する。				
参考URL					
その他					

科目分類	基礎教養科目群		対象学年	1
授業科目	韓国語特別演習 I		学期	春学期
代表教員	鄭 世桓		選択/必修	選択
科目コード	H901105	授業形態	演習	単位数 1.0
授業の概要	<p>[入門レベル] 韓国語を習ったことのない受講生の場合には、文字や発音からはじめ、基礎的な文法や表現などを身につけることを目標とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] すでに韓国語を習ったことのある受講生の場合には、それぞれのレベルに合わせ、講読形式の授業を行う。</p>			
授業の内容	<p>[入門レベル] 文字や発音について学習した後、基本的な文法や語彙、会話の能力を向上するための授業とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] それぞれのレベルに合わせて、新聞や小説、専門図書などの本を読み、読解能力を身につけてもらう。</p>			
テキスト	<p>[入門レベル] 『パルン韓国語』朝日出版社 2019年</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 履修者のレベルに合わせ、選定する。</p>			
参考文献	<p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 初級1』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 初級2』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級1』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級2』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 高級』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『韓国語能力試験Topik1・2級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『韓国語能力試験Topik3・4級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『韓国語能力試験Topik5・6級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『標準韓国語文法事典』韓国・国立国語院, 알렉</p>			
評価方法	韓国語能力だけでなく、授業への意欲、積極性などを評価の対象とする。			
参考URL	https://www.youtube.com/channel/UCK1vXMsGUcsNW8DjmYxqw_Q/playlists			
その他				

科目分類	基礎教養科目群			対象学年	1
授業科目	韓国語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	鄭 世桓			選択/必修	選択
科目コード	H901106	授業形態	演習	単位数	1.0
授業の概要	<p>[入門レベル] 韓国語を習ったことのない受講生の場合には、文字や発音からはじめ、基礎的な文法や表現などを身につけることを目標とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] すでに韓国語を習ったことのある受講生の場合には、それぞれのレベルに合わせ、講読形式の授業を行う。</p>				
授業の内容	<p>[入門レベル] 文字や発音について学習した後、基本的な文法や語彙、会話の能力を向上するための授業とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] それぞれのレベルに合わせて、新聞や小説、専門図書などの本を読み、読解能力を身につけてもらう。</p>				
テキスト	<p>[入門レベル] 『パルン韓国語』朝日出版社 2019年</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 履修者のレベルに合わせ、選定する。</p>				
参考文献	<p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 初級1』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 初級2』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級1』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級2』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『New 가나다 KOREAN for Japanese 高級』カナダ韓国語学院, (주)한글파크</p> <p>『韓国語能力試験Topik1・2級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『韓国語能力試験Topik3・4級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『韓国語能力試験Topik5・6級初級単語800』河仁南, 語研</p> <p>『標準韓国語文法事典』韓国・国立国語院, 알렉</p>				
評価方法	韓国語能力だけでなく、授業への意欲、積極性などを評価の対象とする。				
参考URL	https://www.youtube.com/channel/UCK1vXMsGUcsNW8DjmYxqw_Q/playlists				
その他					

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目		対象学年	1
授業科目	ロシア語特別演習 I		学期	春学期
代表教員	シローコフ ワジム		選択/必修	選択
科目コード	H901107	授業形態	講義	単位数 1.0
授業の概要	<p>ロシア語の文字、発音、語彙、文法をすでに習ったことのある学習者を対象に、知的内容と一体化したロシア語の研究のみならず、職業生活の中においても、知的コミュニケーションを可能とするロシア語能力を身につける。そのために、学習者の学問領域と関連性のある原典や研究書の講読（和訳と解釈）を主として行う。読んだ内容に対する自分の意見の表わしかたや学問的な考察の述べ方をできるように目的とする。</p> <p>文字と発音の習得はロシア語学習の難所と見られるから、授業で音声学習で迷う点（強勢の位置、ロシア語独特の子音の練習、音調など）が重視される。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な語彙と文法を理解することができる。 ・ 基礎的な文章の内容を読み取ることができる。 ・ 基礎的な文章の内容を聞き取ることができる。 			
授業の内容	<p>第1回 発音と正書法の規則</p> <p>第2回 これは家です 彼は社長だよ</p> <p>第3回 カードはどこ？ ーほら、ここだよ ここにはお金がある いい？ーだめだよ わかるよ</p> <p>第4回 私たちはここに住んでいます これは私の書類です</p> <p>第5回 私は音楽を聴いています いつテレビを観るの？</p> <p>第6回 大好きです とてもお腹がすいています どこで勉強しているの？</p> <p>第7回 それはいい考えだね この本はとっても面白いよ 会社で働いています</p> <p>第8回 私たちは新しい家に住んでいます。机の上に本が立ててあります。</p> <p>第9回 彼について知っていますか？ これはプーシキンの詩です。</p> <p>第10回 これは学生たちの意見です。イワンを知っていますか？</p> <p>第11回 ロシア語の教科書がほしい。 私には妹がいます。</p> <p>第12回 時間がありません。あの作家の新しい本を読みたい。</p> <p>第13回 今、行きます。 彼は足が速い。</p> <p>第14回 私は友達にメールを書きます。ロシア語を習っています。</p> <p>第15回 復習、まとめ</p>			
テキスト	守屋愛著、「ロシア語表現とことんトレーニング」、白水社、2013年			
参考文献	熊野谷葉子著、スニトコ・タチアナ著、「ロシア語表現ハンドブック」、白水社、2019年			
評価方法	3分の2以下の出席者に対しては成績評価を与えない。出席回数、事前学習の状況、毎回の授業態度を考慮して総合的に評価する。			
参考URL	www.sputnik8.com http://www.russian-blog.com/			
その他	ロシア文化体験ワークショップに参加（マトリョーシカの一体の中の電子楽器テルミンの演奏にチャレンジする）。			

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	ロシア語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	シローコフ ワジム			選択/必修	選択
科目コード	H901108	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>ロシア語特別演習Ⅰを終了して、続けてロシア語の知識を深めながら、中級へのステップアップする学習者向けの演習です。少しレベルアップした文法の説明が行われますが、覚えやすいように少しづつレベルを変えて復習されるように指導されます。</p> <p>中級レベルでロシア語能力を高めるためには「語形成知識」の整理とたしかめの練習を行う。接尾語の意味と機能を知る練習、語根や派生の元になっている語を探し出す練習、同一語源にさまざま接辞を付けて語を作る練習、接辞の意味のたしかめと定着のための練習などを主とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純な文法から比較的に複雑な表現のあるテキストを解読できる。 ・簡単な作文を書くことができる。 ・文法事項を理解し、ごく簡単な会話ができる。 				
授業の内容	<p>第1回 自分でやらないといけないよ</p> <p>第2回 私は元気です。熱い時に蒸しますね。</p> <p>第3回 私は医師として働いています。</p> <p>第4回 私はロシアの政治（歴史、文化）に興味があります。</p> <p>第5回 子供たちは彼女と遊んでいます。</p> <p>第6回 以前、モスクワ（ペテルブルグ）に住んでいました。</p> <p>第7回 誰にも関係ないでしょう。どうかゆっくりしゃべってください。</p> <p>第8回 明日は家にいます。先月、ロシアに行って来ました。</p> <p>第9回 がんばって、ついに完成しました。</p> <p>まず映画を観て、それから昼食にします。</p> <p>第10回 次で降りますか？ あなたの叔父さんに電話をしました。</p> <p>第11回 サンタクロースは子供たちにプレゼントをあげました。</p> <p>第12回 この中で一番新しいコンピューターはどれ？</p> <p>風邪をひいたので、大学に行きませんでした。</p> <p>第13回 映画「ドライブ・マイ・カー」を観ましたか？</p> <p>第14回 できれば手伝ってください。</p> <p>第15回 もっと勉強したい人のために</p>				
テキスト	守屋愛著、「ロシア語表現とことんトレーニング」、白水社、2013年				
参考文献	桑野隆著、「もっと知りたいロシア語」、白水社、2021年				
評価方法	3分の2以下の出席者に対しては成績評価を与えない。出席回数、事前学習の状況、毎回の授業態度を考慮して総合的に評価する。				
参考URL	http://www.russian-blog.com/ www.sputnik8.com				
その他	<p>ロシア歴史、文化史を初会する次の映画をご参照してください：</p> <p>－「ラーゲリより愛を込めて」(From Siberia with Love)、2022年</p> <p>－「ドライブ・マイ・カー」(Drive my Car)、2021年</p>				

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	モンゴル語特別演習 I			学期	春学期
代表教員	井上 治			選択/必修	選択
科目コード	H901109	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>モンゴル語の知識を全く持たない者にはモンゴル国で用いられるキリル文字表記のモンゴル語をアルファベットから基本的文法までを教え、辞書や文法表を頼りに初歩的な解読ができるレベルに達することを目的とする。</p> <p>すでにキリル文字表記あるいはウイグル文字表記のモンゴル語の基礎知識がある受講生を対象に、それぞれが専門とする分野（歴史、文化、社会、国際関係、環境など）に関連する原典や研究書の講読（和訳と解釈）を中心に進める。音読を通じての発音指導も行うが、主な力点は、文法の解説を通じて読解力や理解力を向上させることにおく。これとあわせ、研究に求められる知識も習得してほしい。</p>				
授業の内容	<p>第一回目にテキストの選択を行ったのち、受講生の分担箇所を決め、第二回目から講読に移る。受講生は割り当てられたテキストを和訳してレジュメを作成し授業に参加すること。授業では誤訳チェックに終始せず、その文章の解釈や著者の主張にたいする受講生の見解を質すので、レジュメ作成とあわせて、解釈と見解も事前にまとめておくこと。第八回をめぐり、受講生は各自の到達目標を担当者と協議して決定し、最終回の授業で目標達成について自己評価してもらう。なお、まったくの初学者には文字と発音、基本的文法から教授し、原文読解にたる基本的読解力の習得をめざす演習とすることも可能だが、既習者が参加している場合には、初学者にたいしては別枠で補講を行う。</p>				
テキスト	<p>初学者用のテキストはこちらで準備する。</p> <p>すでにモンゴル語の知識を持っている受講生とはテキストを相談してきめる。担当者は以下の文献のいずれかを講読したいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史：ブリヤートのモンゴル語年代記 ○文化：バヤスガル編『青海モンゴル資料集』瀋陽、1997年。 ○社会：ムンフ著『アラシャーのイスラム教徒モンゴル族』フフホト、2005年。 ○国際：ウィトン著『（モンゴル語訳）万国公法』ウランバートル、2006年。 ○環境：エルネトヤ編『モンゴル人の環境保護術』ウランバートル、2003年。 				
参考文献	<p>モリ辞書として以下のふたつを紹介する。</p> <p>小沢重男著『現代モンゴル語辞典（改訂増補版）』大学書林、1994年。</p> <p>王海清著『蒙日辞典』タカラ出版サービス、1992年。</p>				
評価方法	<p>出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、開講当初と学期末の実力の伸び具合にたいする担当者の評価、受講生の自己評価を総合的に判断して評価する。初学者については、出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、文献読解に足るレベルにどれだけ近づいたかを担当者が判断して評価する</p>				
参考URL					
その他	<p>講義進行やテキストに関する希望は随時受け付ける。</p>				

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	モンゴル語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	井上 治			選択/必修	選択
科目コード	H901110	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>「モンゴル語特別演習Ⅰ」を履修し、さらにレベルアップをめざす受講生を対象とする。テキストは、Ⅰに示したものを使用する予定である。レジュメと和訳を中心に進行するが、受講生の実力と要望に配慮しながら授業進度と到達目標を設定する。Ⅰとのレベルの違いを明確にするために、原典史料の講読は精読を、研究書の講読は多読を旨として進める。また、授業の一部をモンゴル語で行う。</p>				
授業の内容	<p>第一回目にテキストの選択を行ったのち、受講生の分担箇所を決めるとともに、受講生各自が到達目標を設定して担当者に申告する。第二回目から講読に移る。受講生は割り当てられたテキストを和訳してレジュメを作成し授業に参加すること。授業では誤訳チェックに終始せず、その文章の解釈や著者の主張にたいする受講生の見解を質すので、レジュメ作成とあわせて、解釈と見解も事前にまとめておくこと。最終回の授業で目標達成について自己評価してもらう。</p>				
テキスト	<p>Ⅰと同じテキストを使用したいと考えている。 初學者用のテキストはこちらで準備する。 ○歴史：ブリヤートのモンゴル語年代記 ○文化：バヤスガル編『青海モンゴル資料集』瀋陽、1997年。 ○社会：ムンフ著『アラシャーのイスラム教徒モンゴル族』フフホト、2005年。 ○国際：ウィトン著『（モンゴル語訳）万国公法』ウランバートル、2006年。 ○環境：エルデネトヤ編『モンゴル人の環境保護術』ウランバートル、2003年。 または、服部文庫所蔵のモンゴル語文献から各自の研究に有益な文献を探求しテキストにしてもよい。</p>				
参考文献	<p>モロ辞書として以下のふたつを紹介する。 小沢重男著『現代モンゴル語辞典（改訂増補版）』大学書林、1994年。 王海清著『蒙日辞典』タカラ出版サービス、1992年。 その他、辞書や文法書は担当者の所にそろっているので必要に応じて提供する。</p>				
評価方法	<p>出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、開講当初と学期末の実力の伸び具合にたいする担当者の評価、受講生の自己評価を総合的に判断して評価する。</p>				
参考URL					
その他	<p>講義進行やテキストに関する希望は随時受け付ける。</p>				

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	日本語特別演習 I			学期	春学期
代表教員	犬塚 優司			選択/必修	選択
科目コード	H901111	授業形態	演習	単位数	1.0
授業の概要	<p>中級以上の日本語能力のある外国人留学生を対象とし、日本語の学術文献を読解できるようにすることを目的とする。日本語文献を読み、内容についての質疑応答、学生同士の討論、文章の要約等を通して、文献の内容の理解を深めることができるようにする。学生が専門とする分野の文献等を教材として用いる。あわせて、日本語で研究レポート等を書く上での注意点を学んでいく。</p>				
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション。 第2回 文章の読解。 第3回 文章の読解。 第4回 文章の読解。 第5回 文章の読解。 第6回 文章の読解。 第7回 文章の読解。 第8回 文章の読解。 第9回 文章の読解。 第10回 文章の読解。 第11回 文章の読解。 第12回 文章の読解。 第13回 文章の読解。 第14回 文章の読解。 第15回 文章の読解。 第一回の授業において、オリエンテーションを行う。第二回以降、日本語の文章の読解を進める。読解においては、まず音読を行い、語句の意味の確認・説明、文章全体の内容確認、内容の要約を行うとともに、学術的な文章に特徴的な表現を指摘し、その用法上の注意点を解説する。また、適宜課題を課す。なお、受講生の日本語能力によっては、発音の矯正など初中級段階の指導を行う。</p>				
テキスト	プリントを配布する。受講学生の興味に配慮して、文章を選択する。				
参考文献	松田浩志ほか編『テーマ別上級で学ぶ日本語ワークブック(改訂版)』(2008年、研究社) 宮原彬編『留学生のための時代を読み解く上級日本語』(2006年、スリーエーネットワーク) 庵功雄他編『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2001年、スリーエーネットワーク)				
評価方法	出席・授業への積極性を40%、課題を60%として、総合的に評価する。				
参考URL					
その他	原則として対面授業です。				

科目分類	スキル科目群-国際言語演習科目			対象学年	1
授業科目	日本語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	犬塚 優司			選択/必修	選択
科目コード	H901112	授業形態	演習	単位数	1.0
授業の概要	<p>中級以上の日本語能力のある外国人留学生を対象とし、日本語の学術文献を読解できるようにすることを目的とする。日本語文献を読み、内容についての質疑応答、学生同士の討論、文章の要約等を通して、文献の内容の理解を深めることができるようにする。学生が専門とする分野の文献等を教材として用いる。あわせて、日本語で研究レポート等を書く上での注意点を学んでいく。</p>				
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション。 第2回 文章の読解。 第3回 文章の読解。 第4回 文章の読解。 第5回 文章の読解。 第6回 文章の読解。 第7回 文章の読解。 第8回 文章の読解。 第9回 文章の読解。 第10回 文章の読解。 第11回 文章の読解。 第12回 文章の読解。 第13回 文章の読解。 第14回 文章の読解。 第15回 文章の読解。</p> <p>第一回の授業において、それぞれの受講生が読みたい文章を提案し、授業で扱う文章を選択する。第二回以降、日本語の文章の読解を進める。読解においては、まず音読を行い、語句の意味の確認・説明、文章全体の内容確認、内容の要約、日本語表現の用法上の注意点の解説を行う。また、その文章を提案した受講生を中心に、内容に関する受講生間の討論を行う。適宜課題を課す。なお、受講生の日本語能力によっては、発音の矯正など初中級段階の指導を行う。</p>				
テキスト	プリントを配布する。受講学生の興味に配慮して、文章を選択する。				
参考文献	松田浩志ほか編『テーマ別上級で学ぶ日本語ワークブック(改訂版)』(2008年、研究社) 宮原彬編『留学生のための時代を読み解く上級日本語』(2006年、スリーエーネットワーク) 庵功雄他編『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2001年、スリーエーネットワーク)				
評価方法	出席・授業への積極性を40%、課題を60%として、総合的に評価する。				
参考URL					
その他	原則として対面授業です。				